

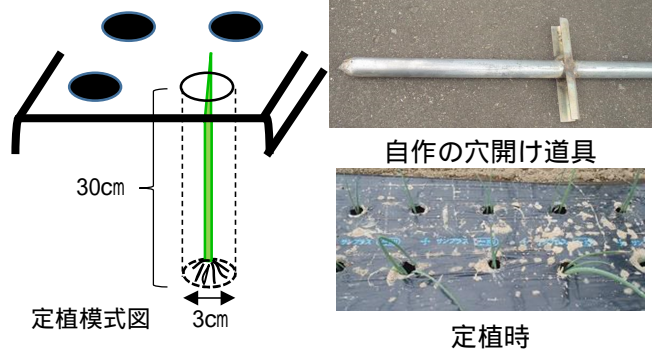
背景・目的

過去2か年の展示栽培において、長ネギは穴底植え栽培（後述）による雪中貯蔵が可能と考えられましたが、穴開け作業の労力が大きいことが課題です。この解決策として、畝を高畝にして軟らかい作土層を厚くする方法が考えられることから、畝の高さの違いによる作業性や貯蔵性の比較を行いました。

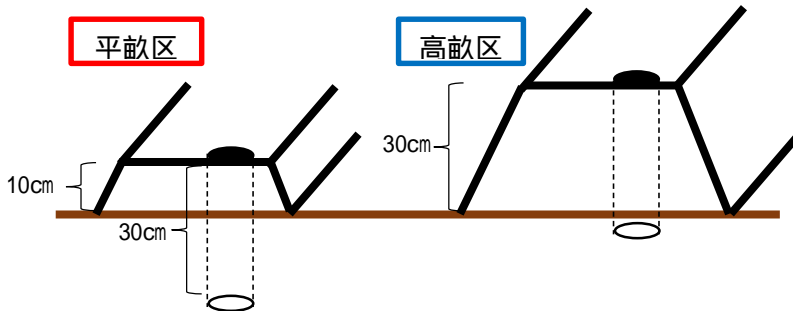
結果

栽培法のポイント「穴底植え栽培[†]」

畝にマルチを張る。
直径3cm、深さ30cm程度の縦穴を開ける。
草丈30cm以上の苗を穴に落とす。それだけで活着する。
灌水は、土壌水分や天候を見て、必要なら実施
購入苗は30cm未満であることが多く、自家育苗が必要
防除以外は、基本放任
雪中貯蔵する場合、収穫せず降雪にまかせ雪の下にする。
収穫は、ネギを持って引き抜く。
品種により、抜きやすさに差があり、抜ける品種が必須
[†]「現代農業」2007.12月号に掲載



試験区として「平畝区：畝の高さが10cm」及び
「高畝区：畝の高さが30cm」を設定しました。



供試品種	なべちゃんゴールド
播種日	令和4年4月25日
定植日	令和4年6月23日
栽植密度	床幅50cm、2条植え 条間15cm×株間15cm
施肥	N:P:K=14:4:7(kg/10a) 土寄せ、追肥をしないため、エコロ ング250の70日タイプ及び100日 タイプを、施肥量の半量ずつ使用

検討の結果

穴開け作業は高畝区が省力的で優れる

高畝区は少ない力で縦穴が開き、作業時間は平畝区の3分の2で済みます。

収穫作業は平畝区が省力的で優れる

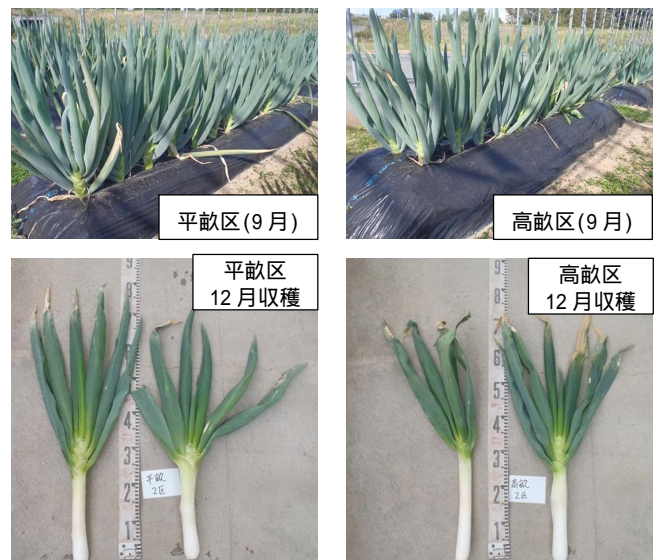
12月以降の収穫では、高畝区は平畝区に比べて引き抜く力が強くないと抜けないことが多く、収穫が困難です。

貯蔵性や糖度は、平畝区が優れる

12月以降の収穫では、高畝区は正品率及び歩留まりが低いです。また、糖度も平畝区の方が高畝区に比べ高かったです。

【結論】雪中貯蔵を前提とする場合は平畝栽培を推奨

高畝栽培を行う場合は、11月中の収穫を推奨します。



結果の活かし方

甘みが強い「雪の下ネギ」を栽培する場合は、平畝栽培を推奨します。穴開け作業性を向上させる目的で高畝栽培を導入する場合は、高畝を作ることができる畝立機やトラクターのアタッチメントが必要です。